

重点分野 2 (中目標)	チャド湖周辺及びサヘル地域の平和と安定												
開発課題 2-1 (小目標) チャド湖周辺及びサヘル地域における平和と安定の促進	【現状と課題】 チャドは1960年の独立後、内乱や近隣国との紛争の影響を受け、長年にわたり不安定な情勢が続いたため、国家開発が停滞した。2010年にスーダンとの和平合意が成立したことにより、治安情勢の安定化の兆しを見せたが、2014年以降のチャド湖周辺地域における暴力的過激派組織やテロ組織の活動の活発化を受け、多くの難民・国内避難民等が発生した。また、これまでの難民の受入れに加え、2023年4月に発生したスーダンにおける国内紛争により、チャド東部には多数の難民・帰還民が流入しており、大規模な人道危機が生じている。					【開発課題への対応方針】 チャド湖周辺地域及びサヘル地域の情勢が不安定化する中、チャドを含む地域全体の脆弱性の克服は喫緊の課題である。近隣国からの難民受け入れによって負担が増えているホストコミュニティへの支援や治安対策能力強化に資する協力を検討していく。							
	協カプログラム名	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考	
				2024 年度 以前	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	2029 年度				
	人道危機対処 プログラム	チャド東部における最も緊要なニーズへの対応	マルチ								2百万米ドル	3	UNHCR連携
		経済社会開発計画	無償								3.00	16	テロ対策機材供与
チャド東部における避難民コミュニティへの平和及びレジリエンス強化		マルチ								0.8百万米ドル	3	IOM連携	
スーダン危機の影響を受けたチャド東部におけるコミュニティにおける食料安全保障・栄養状態の向上及び女性のエンパワメント支援		マルチ								1百万米ドル	3	FAO連携	

【凡例】 「協準」（＝全ての協カ準備調査）、「詳細設計」（＝詳細設計）、「基礎情報調査」（＝基礎情報収集・確認調査）、「技プロ」（＝技術協カプロジェクト）、「開発計画」（＝開発計画調査型技術協カ）、「個別専門家」、「個別機材」、「個別研修」、「課題別研修他」（＝課題別研修及び青年研修、長期研修）、「JOCV」（＝JICA海外協カ隊）、「第三国専門家」、「第三国研修」、「現地国内研修」、「科学技術」（＝科学技術協カ（技プロ型及び個別専門家型、SATREPS））、「草の根技協」（＝草の根技術協カ）、「〇〇省技協」（＝外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協カ）、「民間提案型技協」（＝開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業）、「SDGs調査」（＝途上国の課題解決型ビジネス（SDGsビジネス）調査）、「無償」（＝以下に特記するサブ・スキームを除く全ての無償資金協カ）、「食糧援助」（＝食糧援助）、「一般文化」（＝一般文化無償資金協カ）、「草の根文化」（＝草の根文化無償資金協カ）、「緊急無償」（＝緊急無償資金協カ）、「日本NGO」（＝日本NGO連携無償資金協カ）、「草の根無償」（＝草の根・人間の安全保障無償資金協カ）、「有償」（＝円借款、海外投融資）、「マルチ」（＝国際機関等を通じた多国間協カスキーム）、「基礎調査」（＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「基礎調査」）、「案件化調査」（＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「案件化調査」）、「普及・実証・ビジネス化事業」（＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「普及・実証・ビジネス化事業」）、「ニーズ確認調査」（＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「ニーズ確認調査」）、「ビジネス化実証事業」（＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「ビジネス化実証事業」）、「実線「――」（＝実施期間）、「破線「----」（＝実施予定期間） ※この凡例にない略語を使用する場合は凡例に当概略語を記載したうえで使用する。

【SDGsゴールの説明】 1「貧困」、2「飢餓」、3「保健」、4「教育」、5「ジェンダー」、6「水・衛生」、7「エネルギー」、8「経済成長と雇用」、9「インフラ、産業化、イノベーション」、10「不平等」、11「持続可能な都市」、12「持続可能な消費と生産」、13「気候変動」、14「海洋資源」、15「陸上資源」、16「平和」、17「実施手段」

【SDGsの詳細】 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf